

「大和ハウスグループ サステナビリティレポート2018」用語集

用語	解説
ア アクティブ(コントロール)	アクティブ(Active)とは積極的を意味する英語で、住宅・建築デザインにおいては、パッシブ(Passive)と対比して用いられ、「自然」を活かした建築デザインを行った上で、創エネや省エネなどを機械や設備などを用いて積極的に制御する設計手法のこと。
ア 一次エネルギー消費量	化石燃料、原子力燃料、推量・太陽光から得られるエネルギーを「一次エネルギー」、これらを変換・加工して得られるエネルギー(電気・灯油・都市ガス等)を「二次エネルギー」という。建築物は二次エネルギーが多く使用されており、それぞれ異なる計量単位(kWh、ℓ、MJ等)で使用されている。それを一次エネルギーに換算することにより、建築物の総エネルギー消費量を同じ単位(MJ、GJ)で求めることができるようになる。
カ グリーン調達・グリーン購入	商品やサービスを購入する際、価格や品質だけでなく、環境負荷ができるだけ小さいものを優先的に購入すること。当社グループでは、建設資材等については「グリーン調達」、業務に使用する紙や文具等については「グリーン購入」として使い分けている。
カ 固定価格買取制度	平成24年7月から始まった制度で、再生可能エネルギー(太陽光・風力・水力(3万kW未満)・地熱・バイオマス等)によって発電した電気を、一定の期間、一定の価格で買い取ることを電力会社に義務付け、社会全体で再生可能エネルギーを普及・拡大させることを目的としている。
サ 再生可能エネルギー	有限で枯渇する可能性のある石油や石炭などの化石燃料ではなく、自然環境の中で繰り返し起こる現象等から取り出し、永続的に利用することができるエネルギーの総称。具体的には、太陽光や太陽熱、風力、地熱などを利用した自然エネルギーと、廃棄物の焼却による熱利用・発電などのリサイクルエネルギーのこと。
サ サプライチェーン	原料調達の段階から製品やサービスが消費者の手に届くまでの全プロセスのつながりのこと。
サ システム建築	規模や仕様の似た用途ごとに、外壁・構造躯体等を規格化し、一部の部材を工場にてあらかじめ加工・組み立てた建築物。現場で一から製作する在来工法に比べ、品質・価格の安定、工期の短縮が図れる上、現場での廃棄物削減や分別解体を容易にするなどの特長がある。
サ 住宅ストック	国内にすでに建築されている既存の住宅のこと。
サ スマートハウス、スマートビル、スマートコミュニティ(シティ)	スマートハウス・スマートビルとは、家電や設備機器、太陽光発電・蓄電池などのエネルギー機器を情報通信技術を活用して最適制御を行い、生活者のニーズに応じた様々なサービスを提供する住宅やビルのこと。また、このような考えを街全体へ広げ、エネルギーの効率利用と快適な暮らしを両立した街のことをスマートコミュニティ(シティ)という。
サ 生物多様性	生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。地球上の生きものは、長い歴史の中で様々な環境に適応して進化することによって多様な個性を持つとともに、全ての生きものは直接・間接的に支えあって生きている。1992年につくられた「生物多様性条約」では、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性という3つのレベルで多様性があるとしている。
サ ゼロエミッション	ある産業から出るすべての廃棄物を新たに他の分野の原料として活用し、あらゆる廃棄物をゼロにすること。当社では、廃棄物を燃料利用するサーマルリサイクルも含めてゼロエミッション活動を展開している。
ハ バリューチェーン	原材料の調達から、お客様への製品・サービスの提供といった企業活動全般において企業が提供する付加価値や、それを受け取る(影響を受ける)ステークホルダー全体のこと。
ハ パッシブ(コントロール)	パッシブ(Passive)とは受動的を意味する英語で、住宅・建築デザインにおいては、エアコンなどの設備機器をできるだけ使わず、太陽熱や光、風、緑といった「自然」を活かして快適な建築空間をつくり出そうとする設計思想・設計手法のこと。
マ メガソーラー	出力が1メガワット(1,000キロワット)以上の大規模な太陽光発電所のこと。
ラ ライフサイクル	その製品に関する資源の採取から製造・販売・使用・再生・廃棄などの全ての段階。
BEI	Building Energy Index の略。建築物の省エネ性能を表す指標。国で定めた基準仕様の建築物と、設計した建築物の一次エネルギー消費量の比で表す。値が小さいほど省エネ性能が高い。
CASBEE	CASBEE(建築環境総合性能評価システム: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency)は、日本で開発された建築物の環境性能評価手法。省エネ・省資源といった環境負荷の低減だけでなく、室内の快適性や景観への配慮も含め、建築物の環境性能を総合的に5段階で評価する。
CSR自己評価指標	当社グループ独自の取り組みで、ステークホルダー、環境、CSR経営の基盤の6分野に対し、優先的に実施すべき活動を選定し、さらにその活動に対する具体的な指標を設定したもの。年度毎に各該部門が進捗を管理することで、経営基盤の強化を目指している。
IR	Investor Relationsの略語。株主や投資家などIR との良好な関係をつくるための活動のこと。
ISO26000	(企業に限らない)組織が社会的責任を効果的に実践するための手引(ガイダンス)として、国際標準化機構(ISO)が2010年11月に発行した国際規格。
SDGs	Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略語。2015年に「国連持続可能な開発サミット」で採択され、17の目標と169のターゲットからなる。
ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)	外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備え、再生可能エネルギーにより年間の一次エネルギー消費量が正味ゼロまたはマイナスの住宅。 【要件】 ①強化外皮基準(1~8地域の平成 25 年省エネルギー基準(ηA値、気密・防露性能の確保等の留意事項)を満たした上で、UA値 1、2地域:0.4[W/mK]相当以下、3地域:0.5[W/mK]相当以下、4~7地域:0.6[W/mK]相当以下) ②再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から20%以上の一次エネルギー消費量削減 ③再生可能エネルギーを導入(容量不問) ④再生可能エネルギーを加えて、基準一次エネルギー消費量から100%以上の一次エネルギー消費量削減

「大和ハウスグループ サステナビリティレポート2018」用語集

用語

解説

ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)

先進的な建築設計によるエネルギー負荷の抑制やパッシブ技術の採用による自然エネルギーの積極的な活用、高効率な設備システムの導入等により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、エネルギー自立度を極力高め、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指した建築物。

【要件】

- ① 再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から50%以上の一次エネルギー消費量削減。
- ② 再生可能エネルギーを加えて、基準一次エネルギー消費量から100%以上の一次エネルギー消費量削減。

Nealy ZEB
(ニアリー・ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)

ZEBに限りなく近い建築物として、ZEB Readyの要件を満たしつつ、再生可能エネルギーにより年間の一次エネルギー消費量をゼロに近付けた建築物。

【要件】

- ① 再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から50%以上の一次エネルギー消費量削減。
- ② 再生可能エネルギーを加えて、基準一次エネルギー消費量から75%以上100%未満の一次エネルギー消費量削減。

ZEB Ready
(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル・レディ)

ZEBを見据えた先進建築物として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた建築物。

【要件】

再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から50%以上の一次エネルギー消費量削減。